

◆【海員随想】五十の手習い 口之津太郎

インターネットを始めてから早や1年半が過ぎた。パソコンはSOTEC（韓国製）を通販で求めた。確認の葉書の往復後、10日ほどで梱包された約10万円のPCが宅配便で届いたが、梱包を解くにつれ高価なおモチャを手に入れた子どものように笑みがこぼれた。しかし、その後が大変だった。ミニ128のルーターを求めNTTに中継局の配線をお願いする。2000円弱の工事が一瞬の間に終了。自分の方は家の電話から部屋まで、四芯の線モジュールケーブルを天井に這わす。この線が10メートルで1000円。これを約1メートル間隔で留め金固定し、ルーターにつなぐ。1階の電話から2階のPCの机まで、天井へは梯子を使っての悪戦苦闘だった。今考えると「無知」とは恐ろしい。すべて業者に依頼するなら、自分は見ているのみ、茶菓の準備だけでよかったのだろうが、結局一人でこなした。

ただし、この後のセットアップも大変だった。PC自体のSUが終了して、インターネットに接続するのに苦労した。同封のプロバイダーに接続するのに、ユーザー名、パスワード、メールアドレス、クレジットカードの名義、番号など不慣れなキーボードを操作して入力する。この入力だけで数時間かかったし、何度もミスを繰り返した。最後には、目が疲れ、コーヒータイムとなるありさま。

結局、ようやくISDNでの接続、ダイヤルアップができる。最初の接続は、やはりYahoo Japanである。昔の古い机の脚を切断して、キーボードの操作をしやすくしたが、一つひとつのキーを確認しながらなので時間がかかる。ブラインドタッチなど、まだできないが、画面上にヤフーが出たときは久々に興奮した。いろんなジャンル別の検索ができる。観光、地理、自然科学、工学などから、映画、音楽関係などのイベント情報などだ。

PCがフリーズしたときには、電話片手に画面を見ながら、息子に対処法を手ほどきしてもらおう。会話の絶えた親子の共通の話題もでき、息子は知らず、私にはうれしいことだ。

余裕の出てきた現在は、いろいろな人のホームページへ接続し、チャットを楽しんでいる。ただし、いまだにブラインドタッチができないため、意見主張の場では、書き込みに数時間かかる。

インターネット用語？ とでもいうべきなのか、メアド（メールアドレス）、カキコ（書き込み）、レス（返事？）、横レス（第三者として話に入り込むこと）、ゴルアー（叱責するときのコラァーの軽い意味）なども、いつの間にか使用している。

「五十の手習い」で始めたが、便利な反面、意外性も多いが、これからもマイペースで付き合っていくつもりである。